

注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

極秘

総番号 R085549

月 08日

62年 06月 09日

4-40

外務大臣殿

ヴェネチア

本省

主管

発着 欧西 1

西田大使

日独首のう会談

第88号 極秘 大至急

9日午後6時15分より約40分間にわたりコール首相スイートにて日独首のう会談が行われたところ概要以下の通り（同席者わが方：ワタナベ官房副東官、北村外番、ハセガワ・欧ア局長、フクダ総理秘書官、在西独大ナカネ（通訳）、先方：オスト政府スポークスマン、テイトマイヤー大蔵次官、テルチック局長、ノイヤーギ典課長）。

1. 軍縮問題

（総理）軍縮問題につき御意見をうかがいたい。

（コール）軍縮問題については、ソ連の政策をどうみるかという問題と密接につながっている。ゴルバチョフ政権についてどう評価するかは現時点ではなし得ず、もう2-3年は見守る必要がある。西側の中には「ゴ」政権につき（1）「ゴ」になつても何もかわつてないとするものと、（2）「ゴ」になつてからすべてが変わつたとするものの二つの両極たんの見方があるが、自分は両方共間違っていると思う。INF問題については、長射程INFのゼロオプションについては従来より支持してきた。射程500-1000キロについては、500キロ未満のゼロオプションにつ

電信写

3. 本電の内容に関する照会等は慎重を期せられたい。要望等は検閲班（内線2171、2174）に。主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

ながりかねないという観点から非常に難しい問題があつた。他方、また500キロ以上のINFを全廃するという事になると、500キロ未満のみが残り、独のみが射程きよ離内に入ることになつてドイツにとつて極めて難しい問題となる。いずれにしても独としては今後米が米ソ交渉において西独の72基のパーシングIAについて明確な立場で臨むことを期待している。また、西独としては化学兵器、通常戦力といった問題もあわせ考慮される必要があると考える。米ソ合意が本年中に成立することを期待している。

「ゴ」は西側諸国の政治日程を念頭において西側にゆさぶりをかけることを目論んでいることははつきりしており、かかる観点から西側諸国としては安全保障問題を国内政治日程とからめないようにすることが重要と考える。

（総理）日本の考え方は長射程INF及び500-1000キロ射程のゼロオプションの双方ともグローバルゼロでなければならず、また、アジアと欧州が同等に扱われるべきものということである。射程500キロ以下のシステムについてはNATO内でまず十分協議して決められるべき問題と考える。その際、通常戦力削減、化学兵器全廃についてもあわせ考慮されねばならないと考えている。米ソ間では長射程INFについて、欧州ゼロ、ソ連・アジア部に100、アラスカに100残すという議論もあつた。日本としては、INF合意成立の為に、それ以外に道がないということであれば、ソ連・アジア部に100、アラスカに100残すということもやむを得ないが、これはあくまで暫定的合意という性格のものである。その際には更に期間と継続交渉のプロセスを明示する必要がある。ソ連・アジア部に100残すということになれば

秘
注 冊 限

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

、検証の問題においても極めて難しい問題を引き起こす。ソ連の演習、訓練（コール首相は、ソ連はまさにこの点について米ソINF協定の中にその為の留保を付そうと試みている旨言及）という点からもゼロの方が良い。

2. ベルシヤ湾の安全航行問題

(総理) ベルシヤ湾の安全航行問題についての西独の立場如何。

(コール) 西独としてもベルシヤ湾の安全航行については、特に国際的航路であるホルムズ海きよの自由航行確保に関心を有している。また、重要なことは、イラン・イラク紛争の終結をはかることである。この為の国連事務総長の努力を支援するという

ことをこのヴェネチア・サミットにおいても明確に示す必要がある。この問題については米国内においては、西独がベルシヤ湾に軍艦を派遣すべしとの議論もあつたが、これは西独の基本法上の制約があり、行い得ない。しかしながらNATOの中には、役割分担があるので、この点から西独としてもなし得ることを検討している。例えば、米国がベルシヤ湾あるいは他の地域に軍艦を派遣しなければならなくなつた場合に、そのあなうめとして西独が大西洋ルート of 安全確保の為に追加的なこうけんを果たすという考え方である。これであればNATOの対象地域の範囲なので法制上も問題ない。かかるこうけんを行うことになれば資金的負担が生ずることはもち論である。

。因みに西独はベルシヤ湾から石油需要全体の約8%を輸入している。

(総理) ベルシヤ湾に軍艦を派遣できないという憲法上の制約については日本も同様である。他方、日本はベルシヤ湾から国内石油需要の約55%を輸入していることもあり、いかなる形で安全航行確保の為にこうけんをなし得るか真げんに検討中である

極秘

注意

1. 本書の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本書の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

。例えば、湾がん諸国に対する経済協力の拡じゆう、イ・イ紛争が終結した場合の復
 こう援助あるいは石油備ちくの増加という形、あるいは国際スキームの中でベルシャ
 湾の安全航行確保についてのスキームという様なものが国際的に合意できれば、日本
 としても同地域の平和維持及び安全航行の確保という観点から資金面でのこうけんを
 果たすことを検討したい。西独と日本は石油依存度という点においては多少異なるが
 、他方ベルシャ湾の安全航行問題に軍事的こうけんをなしえないという点では同じ立
 場なので、今後とも本問題について協議を継続していきたい。

(コール) 賛成である。

3. 経済問題

(総理) 先般内需拡大を主とする緊急経済対策を発表した。このうちの5兆円の内需
 拡大については7月に補正予算の形で国会に提出する予定。また1兆円減税について
 も8月の国会に提出したいと考えている。このほか緊急経済対策の中には、200億
 ドルの対LDC資金かん流及び今後3ケ年にわたるサブサハラアフリカ諸国等に対す
 る5億ドルのノンプロジェクト援助等も含まれている。また、政府調達に係る10億
 ドルの緊急輸入についても補正予算の中に組み込む考えである。市場開放についても
 、日本としては引き続き進めていく考えである。

(コール) 西独政府は、1986年から88年に250億マルク、更に88年から1
 990年までに更なる250億マルクの減税措置を行うこととなっており、このうち
 の一部については本年末までに所要の立法手続を講ずる予定である。この結果全体と
 して自分の首相就任以来500億マルクの減税措置 (対GNP比2.5%) を実施す

091011 063 1566 04

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

ることとなるが、かかる規模の減税措置はかつて例をみないほどのものである。この様に西独政府は過去のサミットで引き受けたコミットメントを誠実にり行している。かかる減税措置の実施にあたっては、西独が連邦制度という形態をとつていることもあり、各州からの反対も強く、その実現の為には多大の政治的努力を必要とした点を強調しておきたい。

(コール) 為替に関しては過去20ヶ月の間、米ドル・マルクレートの変動はいちじらしいものがあつた。通貨政策面で非常に難しい問題があつたが、他方インフレも実質的にはゼロに抑えており、国内景気の状態も良く、本年第1四半期については内需は4% (対前年同期比) の拡大をみている。経済成長率も大旨本年の予測値の数字を達成できるものと思う。西独としては米の財政あか字が為替相場混乱の原因であると見ており、その点を今回のサミットでも指摘する方針。また、ボルカーFRB議長の後任のグリーンズパンが今後景気後退があるという発言をしたことを今日新聞で読んだが、かかる発言には大きな疑問を感じる。サミットにおいて重要なことは、人工的なひ観主義を打ち出すことではなく、現実的らく観主義を打出すことが重要との立場である。

西独、米、英、仏、加、EC代に転電した。(了)

091011 063 1566 04

行府、館所

欧西1極秘第 66号-5

昭和62年6月4日
期
重

極秘

注意 1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は除開電（内線2171、2174）に
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3189）に連絡あ
りたい。

電信写

総番号 R085584

月 09日

62年 06月 09日

外務大臣殿

ヴェネチア

本省

西田大使

主 管
発 着
欧西1

VS 11 (日独外相会談)

第94号 極秘 大至急

日独外相会談は、8日18:10より18:50まで、クラナリ大臣スイートにて行
われたところ、右概要次の通り。(同席者:わが方経済局長、情報調査局長、秘書官
、欧西1長他、先方政務局長、経済局長、秘書室長。)

1. クラナリ大臣より、第14回日独外相定期協議をせ非本年中に行いたいと述べ、
ゲンシャー外相(以下「ゲ」)の訪日方招待したところ、「ゲ」はこれに謝意を表し
た。次いで、大臣より、厳に内密に願いたい旨前置きした後、ベルリン日独センター
の11月の開所式はヒロノミヤ殿下に出席していただくことになった旨伝えたところ
、先方は満足気にうなずいていた。

2. 大臣より、時間の制約もあり、ベルシャ湾問題と東西関係についてお話をしたい
旨述べ、ベルシャ湾問題につき次の通り述べた。

(1) 5月、日本船もひ弾し、スターク号事件もあつたが、5月22日以降、イラン
・イラクから攻撃が行われていないという事実に注目したい。

(2) 本件については、日本としては、次の3つの政策方針を有している。

(イ) 安保理に積極的に参加すること。(常任理事国がいかなる話をしているかは知

昭和62年6月4日
東京

秘
密

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は総務課（内線2171、2174）に
3. 主管変更に関する照会等は調整課（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

秘
密

らされていないが。）

(ロ) 紛争終結後への復こうへの協力。特におん健康がん諸国の発展へのこうけん。

(ハ) 軍事的協力はできないが、航行安全のための国際的スキームができれば財政面も含め、これに協力したい。

(3) 自分はサミット後、イランに赴き、同国の指導者と話し合う予定である。イラ
ン・イラクのしやう突はソ連を利するのみ。紛争はイラクが始めたというのは現に貴
外相も御存知の通りであるが、双方に言い分があり、イランを追いつめると自暴自棄
になり、得策ではない。イランをおびかしても同国は聞くみみをもたないであろう。

(4) 自分はサミットで本件につき宣言を発出することにつき賛成ではあるが、宣言
を出すとすれば、双方に受け入れられるものとすべし。

3. これに対し、「ゲ」より、次の通り述べた。

(1) ペルシヤ湾情勢については独はイラン・イラク両国と比較的良好な関係を有し
ており、基本的には、中立的であり、武器供与をしないこと等紛争の不拡大に努力し
ているが、湾がん諸国の動向には懸念をもっている。

(2) 西独は、国連事務総長の努力を支持し、また安保理が効果的な措置をとるよう
努力しているが、憲法上の制約もあり、NATO域外への海外派兵等はできない。

(3) ペルシヤ湾の安定は、西側のみならず、世界にとって重要であるが、今次サミ
ットがペルシヤ湾サミットにならないことが重要である。サミット直前の事件により

091046 063 1582 04

昭和62年6月4日
東京



注意

1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する取扱い、要領等は添付表（内閣2171、2174）に、
3. 主旨変更に関する照会等は調整班（内閣3169）に連絡ありたい。

電信写

秘 密

経済サミットという本来の目的から外れ、メディアのためのサミットになることを懸念する。

4. 東西関係につき、クラナリ大臣より、西独がSRINFに関し、困難な情勢の中で行った決定を評価するとともに、わが方の立場として、困難な情勢の中アジアが不利に扱われないことへのわが国の強い希望を表明した。これに対し、「ゲ」より、独としても、グローバルな解決に力点を置いてきたとして、最近のSRINFに関する決定内容を説明した。

5. 「ゲ」より、ソ連の国内で生じている変化に言及し、西側は、共通の立場に立ち、積極的にかかる変化をうまく利用すべきであるとしつつも、かかる変化がどの程度実現するかは、よく見守る必要があると述べ、7月のヴァイツゼッカー大統領訪ソに同行し、ソ連の考えをさぐりたいと述べ、いずれにせよ、今はきょう味深い時代であると述べた。クラナリ大臣より、ペレストロイカやグラスノスチがどこまで成功すると思うかと質したに対し、「ゲ」より、昨ばんレオンハルト教授と話をしたが、ソ連国内にもてい抗が強く、ソ連が非常に大きな国であることから、これを支配し、統治するのは容易ではない旨コメントした。

6. クラナリ大臣より、東西関係に関する政治声明についての独の立場を質したところ、独としては、PR案の方がよいと思う。仏も自分が話した限りでは、米案には同意しないとの印象をもっている。

7. クラナリ大臣より、アジアからサミットに参加するゆい一の国として、アジアにおける政治上、経済上の諸問題を他の参加国が念頭においてほしい旨述べるとともに

昭和62年6月4日
政 電 第 〇〇 号

秘 密 印

極 秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内職2171、2174）に、主管変更に関する照会等は調整班（内職3169）に連絡ありたい。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内職3169）に連絡ありたい。

電信写

、朝鮮半島に関し、ソウル・オリンピック成功への協力、緊張かん和のための南北対話促進の必要性を強調したところ、「ゲ」より、これに同調する発言があつた。

8. 「ゲ」より、今次サミットは、自由貿易けん持、債務るい積、世界経済への新たな刺激、経済の安定化等の重要な問題に対処することにつき、世界の大きな期待があり、政治問題が経済問題をりようがすべきではないと再度強調したのに対し、クラナリ大臣より、日本のこうけんとして、430億ドルに上る内需拡大、200億ドル資金かん流措置、アフリカ諸国への無償援助等を説明し、独側のこうけん内容を質したところ、「ゲ」より、西独は最ひん国への債務を免除している、マルク高により、米独間の貿易構造が変化していること、日本との関係でもECの対日あか字の3分の1以上を西独がかん受している（このため日本政府が調達するものは、西独から多くを購入してほしい）、国内の減税措置等をとる予定であり、これらによりこうけんしている等述べるとともに西独の機関車論がとなえられるが、かかる要求は過大な要求であつて、とりわけインフレの機関車になりかねないので、独はむしろ安定のための機関車になりたいと考えている旨付言した。

西独に転電した。（了）

SECRETED COPY FILED IN

1. 日時、場所

昭和62年6月4日
欧 亜 局

秘
禁 明 限

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

政府声明等につき説明予定)

4. ソ連、東欧諸国との関係
5. 東アジア太平洋地域の安全保障問題（日中関係、朝鮮半島情勢、クラナリ大臣の太平洋地域訪問等に示される日本の同地域に対する政策及びソ連の同地域への関心等）

(以下時間が許せば)

6. ペルシャ湾情勢、南ア問題等
7. 日独二国間問題（ベルリン独日センター開所式への皇室及び日本政府代表の出席問題：本件は首のう会談でも取上げられる可能性あり、在日ドイツ人学校問題）（了）

WOLTER
WOLTER
WOLTER
WOLTER

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
 3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡せよ。

極秘

限定配布

電信写

総番号 R060929

主管

月 11日

ドイツ 発

63年 4月 12日

本省 着

欧豆局長

外務大臣殿

宮沢大使

ムラタ次官の訪独（ゲンシャー外相表けい）

第838号 極秘 至急（ゆう先処理）

（限定配布）

貴電欧西一合第3954号に関し

11日午前、ムラタ次官は、ゲンシャー外相と約40分間にわたり会談を行つたところ、右概要以下の通り（先方ズートホフ次官他、当方本使他同席）。

会談内容は、（1）日独外相定期協議、（2）タケシタ総理訪独、（3）トロント・サミット、（4）イラン・イラク紛争等（なお、会談は、終始独語で行われた）。

1. 日独外相定期協議

（ゲンシャー外相）昨年、の国連での会談以降再度貴次官とお目にかかれてうれしい。また、タケシタ総理訪独とトロント・サミットの前に貴官と意見交換できることは有益。日独両国は、世界経済の発展に対し共通の責任を有しているところ、世界経済にはなお成長のポテンシャル（リザーヴ）が残されており、これを如何に活性化するか課題である。また、欧州の統合も世界経済の成長にとつてのポテンシャル（リザーヴ）となるものと考えている。われわれとしては、かかる先進国間での世界経済成長のポテンシャルを如何に第三世界においてモビライズするかの試みも行わなければならない。特にこの観点において、日本が昨年来行つている各種の努力をかん迎し、これらが効果を挙げつつあることを評価する。日独間はもちろんのこと、日欧間で多くのことを話し合う必要があり、今後ともインテシヴな意見交換が行われることを希望する。この関連で、自分（ゲ外相）の訪日による日独外相定期協議につき、日程上の調整の問題があると承知しているが如何（ツイラー日本担当部長より、日本側には、7月1、2または4、5日の日程では困難があるようである旨付言）。

外務省

審判長

代表

文会厚情オ

電在儀警史

審判内
際外

一二

二旅査移

地中東

北東西

二保

二

洋

百東

二アア

一二

経途博

漁国

エ国

ネ二

審準

国開無

技有理

協規

経人

社

析調

安

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

(ムラタ次官) おいそがしい中をわざわざお会いいただき有難い。昨年7月にニューヨークで貴大臣とお会い出来て幸甚であつた。今回の自分の訪独の目的は、フォン・シュターデン次官の時代に開始され、その後中断気味であつた日独次官級協議を継続再開することにある。宇野外務大臣よりくれぐれも貴外相によるしぐとのことであり、貴大臣あての書簡を託されたので、ここにお届けする（「ゲ」外相は、貴電欧西1合第321号の貴大臣書簡を受領しこれをもく読）。

(ゲ外相) この書簡に書かれてある宇野大臣のお考えと自分の考えは全く同一であり、自分としても出来るだけ早くお会いし、外相定期協議を行いたいと考えている。また、それに先立ち、OECD閣僚会議でもお会いするものと思われ、たのしみにしている。外相定期協議については日本側はどのようにお考えか。

(ムラタ次官) 外相定期協議は、日本側としては7月開催を希望してきたが、右が困難ということであれば、バンコクのASEAN拡大外相会議の際に短時間なりとも日独両国の外相会談を行つていただいてはどうかと思う。もち論その前の5月、6月にOECD閣僚理事会やトロント・サミットの際にも宇野大臣と会われる機会があろうが、今年後半の然るべき時期に外相定期協議を日本で行つては如何と考える。因みにこれまで外相定期協議については仏との間では20回、英国との間では17回行つているのに対し、西独との間では13回と少ない。われわれとしては、数のみが問題ではないが、日独両国の協力関係を反えいして日独間の外相協議をよりひんぱんに行いたいと考えているので、今年後半の然るべき時期に貴大臣の訪日が行われることを期待する。因みに、英国のハウ外相は、大分けんに2、3日滞在し、日本の地方の事情、ハイテクの現状等を視察した後東京で宇野大臣と突つ込んだ協議を行つた経緯があるところ、貴大臣にも東京滞在外に2-3日日本の地方に滞在いただければよいと考えている。

(ゲンシャ-外相) 7月で日程調整が出来なければ、今年の後半の然るべき時期に訪日する可能性につき日程の調整を行つてみたい。後半ということになれば、夏の休かの時期、国連総会出席等のスケジュールがあり得るが、何時ごろが可能か具体的に検討を行いたい。外相定期協議については、貴次官の述べられた通り、定期化することが重要であり、今後ともインテンシヴに行いたいと考えている。また、宇野大臣の書簡に記されているお考えは自分としても完全に支持できる（VOLL UNTERSTREICHEN）ものであるので、その旨くれぐれも宇野大臣にお伝え願いたい。

2. 総理訪独

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

(ムラタ次官) 自分は、毎週一回定例ブリーフィングのために、タケシタ総理にお会いしている。タケシタ総理からは5月の訪独をたのしみにしている旨のコール首相あての伝言を託されているので、右よろしくお伝えいただきたい。総理は日独の関係を重視しておられ、かかる観点から訪独を行われるものである。西独政府もすでに本件訪問の受入れ準備を進めておられるが、バイエルン州での地方滞在も予定されているので、右もよろしくお願ひしたい。タケシタ総理からは、更に昨年11月のナルヒト親王殿下の御訪独についても大成功であり、XXXXXXXXXXのお伝えする。XXXXXXXXXX

XXXXXXXXXX タケシタ総理も、訪独の際コール首相に改めて謝意を述べられるものと思われる。なお、タケシタ総理は、6月に、仏、ベルギー、オランダを訪問される予定である。総理としては、かくして日欧関係の重要性を強調したいとの意向を有しておられる。

(ゲンシャ-外相) そのことはよく承まわつた。自分としてもタケシタ総理の訪独をぜ非とも成功させたいと考えており、その方向で努力をしたい。また、タケシタ総理のメッセージについては、コール首相にお伝えする。最後に、本件後半には、訪日し、定期協議を行いたいと考えているので、くれぐれも宇野大臣によろしくお伝え願ひたい。

3. トロント・サミット

(ゲンシャ-外相) トロント・サミットに対する日本の考え方如何

(ムラタ次官) 議題等につき言々するのは若干時期しよう早かも知れないが、現時点での考え方を述べれば以下の通り。

まず経済問題についてはマクロエコノミックスの観点からみた世界経済の運営やサーヴェイランス、債務の積問題、開発途上国に対する援助問題、世界貿易（就中、ウルグアイ・ラウンドに対し政治的なインパクトを与えるとの観点）が考えられるが、その他に日本の観点からはNIC Sの問題が考えられる。韓国、ほん港、台湾等のNIC Sは、世界経済にとつても重要な意味を持ち始めている。最近ではこれに加えてブラジルやインドも特定分野ではNIC Sに近づきつつあるといわれている。因みに先般のウノ大臣の韓国訪問の際には、韓国側より、先進国は韓国に対し通貨の切り上げや市場の開放等で迫っているが、先進国としても市場開放や構ぞう調整等やるべきことをやっていないのではないかと、先進国に対する不信の感情を表わしている。OECD諸国とNIC S諸国との関係の問題は、きつ緊の課題とはなつていないかも知れな

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

いが、考えておかねばならない重要な問題であり、タケシタ総理、ウノ大臣ともに本件をとり上げてはどうかのお考えがあるようだ。

サミットにおける政治問題については、米ソ首のう会談、東西関係、軍縮・軍備管理、地域紛争（その時点までの情勢の進展をふまえたもの）、テロリズム問題等が考えられるが、タケシタ総理及びウノ大臣としては、これに加え、次の三つのアジアの問題を取り上げ、サミット宣言ない至議長サマリー等の形で言及されることを希望している。即ち、朝鮮半島情勢（オリンピックの開催はもち論、当該地域情勢の世界情勢に与える影響大）、カンボディア問題（シハヌーク等の勢力に対する支援の観点より）、フィリピン情勢（アキノ政権への支援表明及び援助問題）が挙げられる。

（ゲンシャ-外相）アキノ政権に対しては、経済面のみならず、政治面での支援を与えることが極めて重要であり、同政権によりフィリピンにおける民主主義が貫徹されるべきものとする。カンボディアの問題も同様に重要な問題である。ECは域外の諸国と政治対話を行っており、ASEAN諸国とも地域の問題につき協議を行ってきた。かかる経験に基き、ECとして今後ともASEANと協力しつつ、こうけんを行ってゆきたい。韓国については、種々の観点からきょう味がある。野党勢力については、多数党として統一することが出来ず、2つの少数政党に分れてしまつたとの事情もあるが、朝鮮半島情勢をサミットで取り上げて議論することはよいと考える。サミットそのものつき議論すれば元来経済サミットとしてスタートしたものであるが、その経済的な側面については、ルーティーン化したものとなつており、PRについても何ヶ月もの準備期間をかけてだれも続もしないような大部のペーパーを作る等の問題点が指摘しうる。サミットの半分の時間を重要な世界経済の議論にじゅう当することは当然としても、残りの時間については、世界政治の問題に関する議論にあてるべきと考える。サミットは、日・米・欧の首のうがどうに会する数少ない機会であり、その機会に政治問題につき議論を行うことは当然である。特にウィリアムスバ-グのサミットにおいては、日本が政治問題に関する重要な意思決定に参加し、東西関係や軍縮に関する議論が大きな進展をみせた訳であるが、サミットにおいては東西問題全般についても議論されて然るべしと考える。経済問題は、上述の通りマンネリ化してはならないと考える。

（ムラタ次官）トロント・サミットでは独としては南ア問題を取りあげる意向ありや。

（ゲンシャ-外相）西独としては、本件問題に対し多大の関心を有しており、日本がアジアに関する3つの

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

テーマを考慮しておられると同様に、西独も南ア問題を位置付けている。ただし、現時点でははつきりしたことは申し上げられない。

4. イラン・イラク紛争

(ムラタ次官) イラン・イラク紛争については、国連安保理を中心に日独間更には日独伊三国間で緊密な協力が行われてきた。先日、イタリアでアンドレオツテイ外相及びポツタイ外務次官と協議を行つた際にも、自分より日独伊三国の協力が満足しているが、来年以降非常任理事国でなくなつた後も国連等において本件協力関係を非公式に継続してゆきたい旨述べたところ、「ア」外相からもこれに賛成する旨のコメントを得ているところである。

(ゲンシャ-外相) 確かに日独伊三国は、この問題において極めて緊密な協力を行つてきた。日独伊三国の協力は、安保理常任理事国が気がついているか否かは分らないが、ひにくなものであり、ぐう然なのか、意図的なものか、極めて良好である。日独伊三国の非常任理事国の期限は本年末までであるが、その後もかかる協力を継続してゆくことに賛成である。未発表であるが、5月初には独伊両国の外相定期協議が行われることになっており、この問題についても話し合つてみたい。

5. ナカソネ前総理のベルリン訪問

(ムラタ次官) ナカソネ前総理は、本年9月15-17日にかけてベルリンを訪問し、ベルリン日独センターで講演をされる予定である。その際ポーランド、英国、スウェーデンを訪問することも検討されているようである。

(ゲンシャ-外相) ナカソネ前総理のベルリン訪問は、自分としてもたのしみにしている。この時期に自分がドイツに居ればお会いできるものとも考えている。

6. 日本の経済情勢

(ゲンシャ-外相よりわが国の経済情勢如何と質問越したので、ムラタ次官より以下の通り説明)

わが国経済は、第一四半期に7%の伸びを示すという状況にあるが、右には内需という要因がプラスとして寄与しているのであつて、輸出等外部要因はマイナスという形である。独をはじめ、欧州諸国のわが国に対する輸出はいずれものびており、よろこばしい。他方、米国の対日輸出は、さほどの伸びを示していないが、これは日本側に原因があるのではなく、米国製品の国際競争力不足といった米国サイドの要因によるものと

R060929-06

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

みられる。日本は、昨年内需振こうのための補正予算を講じたし、タケシタ総理としても市場アクセスの改善、外国からの輸入の促進といった政策を今後とも継続される方針である。また、税制改革も秋の臨時国会の大きなテーマとなつている（「ゲ」外相より、自分が秋に訪日するのであれば、そのような日本の事情をふまえ事前に十分に余ゆうをもつてウノ大臣の日程を前提に訪日日程につき相談しておく必要があると考える旨発言）。

英に転電した。（了）

秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
 3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

を特殊なものとして理解してそこに何らかの変化を窺み取ろうとする必要はないものと思われる。上記スポークスマンの発言はそれとしてあつたのであろうが、少なくともグエルナー国防省の立場はこれとは同じではないと理解している。国防省のなかにも種々の意見が存在している。

2. (しかしながら、上記発言は、国防省の中にP-1aを米ソのINF交渉と切離し、時間かせぎをするためには、これを通常戦力の軍縮問題とリンクさせた方が良いとの考えがあることを示しているのではないかと質問したところ) かかるスペキュレーションが理論的に成立することについては争いたくないが、現実問題としてはウィーンで行われている通常戦力分野の軍備管理交渉(マンドート交渉)においても対象として問題とされているのは、(東西間で立場は異なるが) せいぜい攻撃航空機、核・非核両用兵器までであり、核をとる載可能なミサイルは本件交渉の対象となつていないこともあり、P-1aの問題を通常戦力の分野での軍備管理交渉の中で議論させようとするのは全く現実にそぐわない議論である。西独政府としては、現在かかる考えには立つていない。

3. (野党社民党は最近もP-1aは廃棄すべきであるとの立場をくり返し強調しており、国内に様々な意見があるが如何との問いに対し) 右要求は全くソ連の立場を代行するものであり、政府としてはくみすることはできない。ソ連の要求は、P-1aの核弾頭については米国の管理下にある核であるから米ソの交渉の対象にすべきであるということであるが、西独としては、本件P-1aのシステム(核弾頭及びミサイル)ともに米ソ間のINF協定交渉の対象とはなつていないとの立場であり、これに

310945 108 4840 05

秘

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線2171、2174）に。
 3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

関しては、米、独ともに第3国のシステムについてはINF協定交渉に含めないとの点で一致をみている。

4. (P-1aの取扱いの問題が障害となつてINF協定が成立しないこととなれば、その責めは西独は負うことになり、ソ連はそれをねらつているとの見方があるが如何との間に対し) その様な見方が存在することについては自分も承知している。しかしながら、INF協定については、P-1aの問題以外に解決を要する問題がいくつもあり、P-1aの問題はそのうちの1つの問題である。これらの問題については、同盟諸国間の協議を必要とするものであり、米単一で決めてよいというものではなからう。また、逆にP-1aについては(米首席代表のキャンベルマンはジュネーヴでP-1aについては、西独がその廃棄を決定できる旨述べているが、バート駐西独米大使が昨日述べたように) 西独一国のみでも決めることができず、同盟全体として決定すべき問題である。P-1aミサイルは1992年にはろうきゆう化するが、これをどうするか、近代化する必要がでてこようが、これについても西独としては何等決定を行つておらず、これも同盟全体と協議しつつ決めていく問題である。おそらくソ連としては、今後INF協定をとるかP-1aの近代化をとるかとのゆきぶりを西独はじめ同盟諸国にかけてくるものと思われる。現在のところ、本年9月中旬ごろに米ソ外相会談が実現する見通しが強いが、右外相会談においてもP-1aだけに限らずその他の事項についても米ソ間で合意が達成されるか否かはなんとも言えず、また、仮に多くの問題がかた付いたとしてもソ連としては、本年秋には革命70しゆう年記念行事等の重要国内行事があり、米ソ首のう会談のタイミングについても多くの

310945 108 4840 05

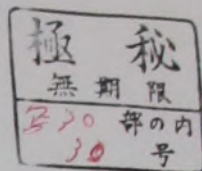
注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班（内線 2171、2174）に。
3. 主管変更に関する照会等は調整班（内線 3169）に連絡ありたい。

電信写

不確定要素がある中で、本件 P-I a の問題のみが突出した形で米ソ間の交流をさまたげる要因とみられるか否かは疑問なしとしなさい。むしろ、ジュネーヴの交渉で解決しなければならない問題がやま積しており、それを解決することが先決であろうと考えられる（当館注：右発言より受けた印象では、同人は米ソ外相協議が行われたとしてもそこにおいて P-I a を除く全ての問題が一挙にかた付き、残るは P-I a だけという状況になるということはないのではないかと見ているふしがあり、時間はまだあるのでここで態度を決めてしまう必要はなく、暫くは交渉の成行きを見守るのが得策との待ちのし勢をとつているやに見受けられた）。

5. なお西独は P-I a 等の米国の核弾頭に依存しないで、将来は仏の中性子爆弾を独国内に配備する計画があるとの報道もみられるが、右は全く根拠のないものであり、これを含めて西独としては、仏の核システムについては何等の先入観も有しておらず、仏の核は仏自身のためのものであるとの立場である。
 6. ヴェルナー国防相は来週米国を訪問し、ワインバーガー長官と会談をするが、その際には本件 P-I a の問題についても意見交換が行われるものと思われる。
- 米、ソ、軍縮代、仏、英、白、オーストリアに転電した。（了）



大平総理・シュミット独首相会谈録

54627

欧西一

I 日時 6月27日 / 4時30分～ / 5時40分

II 同席 日本側 園田外務大臣

田中官房長官

宮崎外務審議官

独側 ゲンシャー外務大臣

ディール大使

シュールマン首相府局長

シュルテ書記官

記 録 木島経経一長

3. 世界情勢

世界情勢につき意見交換したいというシュミットの提案により次のとおり行われた。

(1) アジア情勢

(シュミット) 中東を除けば、東アジアの情勢が現在最も重要であるが、この地域については日本の方が良く御存知であると思われるので総理の御所見をおうかがいしたい。

(総理) インドシナ紛争は小康を保っているが、解決されたわけではなく、中国が second punishment をやる可能性も排除されない。越も clever なようで、ソ連に過度に傾斜することはつつしんでいるように見える。我々は、中、ソ、越に対し self restraint をするよう申入れている。この問題との関連で難民問題があり、この点で越がもつと control するよう申入れている。難民問題は米、日、その他の国にとつても concern の種であり、今度のサミットでもう少し従来の努力をふやすことにつき参加国の同意が得られるのであれば

話し合いたいというのが米国の提案である。

(ASEANをどう見るかとのシュミットの質問に対し) ASEANはLDCとしては高度の発展をとげており、政治的安定度も高いし、域内の連帯も強い。わが国としてはこの stability と solidarity を高めることをもって外交政策の corner stone としている。

(これに対しシュミットよりASEANについてのアセスメントに独も同感なりと述べた後、「難民問題については今後その取扱い方の手続面が問題であろうが夏の間にも実質的合意が得られるようお助け申し上げたい」との発言があつた)。

(2) 欧州情勢

(シュミット) 今次訪日の途次モスクワに寄つて来た。詳細については、日本側より希望あらば自分の外交顧問である Dr. Rufus より日本側担当者に説明するが、一般的な印象として次の点を申し上げたい。

① 将来の中国の政策・戦略につきソ連指導者がいだいている懸念は未だ非常に強いものがある。もつともこれを表(おもて)に出さないよう、以前よりも慎重(judent)になつている。中・ソ間に外務次官レベル会談の話があるが、ソ連は初めからぶちこわす方針は取つていない。しかし外務次官レベル会談の結果何か成果が上がるとは考えていない。

② SALT II が米議会で承認されないのではないかということをもソ連は大変気にしている。つまり米議会を通らない場合にはソ連の政治的・戦略的ラインが困乱することを心配している。自分としては、独の利益(日

本の利益でもあろうが)からして、米大統領が SALT II を議会に提出し、承認を得られるようお手伝い (assist) して行きたい旨ソ連側に述べて来た。

- ③ SALT II でカバーされていない、いわゆる grey area の兵器、すなわち MRBM 中距離弾導ミサイルについてソ連が将来いかなる開発 (development) を進め、我々がこれに如何に対処するかという問題であり、1年前ブレジネフに、また今度モスクワで ブレジネフ、コスイギン に対し、この点につき独として growing concern を持っている旨繰り返し述べておいた。しかし、ソ連側は聞く耳を持たなかつた。

自分がソ連に対し具体的に指摘したのは独の国益からして、中距離についても、戦略的にバランスのとれたものを SALT で作り上げる必要があり、若しそれが出来ないのであれば、西側としても同種の兵器を開発しなければならぬ、という点であり、

フレイム
コ

この点を二度にわたり、明確な言葉でソ連に伝えた。しかしソ連側としてはこのことに触れたくないという態度であり、その際間接的ながら、ソ連としては中国のことも考えねばならないと示唆した。

更に SALT III に関し、ソ連側から、一般かつ曖昧な表現ながら「SALT III は戦略兵器の threat にかかわりを持つている全ての国が参加すべし」と言つたので自分から中国も入るかと質問したところ、ソ連側の答は "yes" であつた。

以上要するに、中距離の戦略兵器については、米・ソ間に余り理解が進んでいないのではないかという印象である。たとえ理解があつたとしてもソ連はそれを外部には示そうとしなかつたのかもしれない。この問題については、なお東京で米大統領に対し問題提起する所存である。

SS-20 中距離ミサイル、バックファイアーの開発拡大は中東、アフリカの一部、

パキスタン、東南アジア、中国、日本をも包含した地域に対する脅威、圧力になる。この共通の脅威に対処する方法につき、日・独間でバイに、tacitly にしかし substantial な意見交換を行つていい時期に来ているものとする。最後に以上に対する foot note として申し上げれば、ブレジネフの健康状態にかんがみ、コスイギンが nominally にはいざ知らず、actually には暫定的にブレジネフの仕事を take over する準備をしているのではないかというのが自分の個人的印象である。もつともこれは speculation であるが。

(総理) ソ連につき、特に grey area の兵器につき詳細に教えていただいてありがたい。我々もこの問題は十分勉強しなければならない。日独間の情報交換を通じ更にいろいろ教えていただくことが多いと思う。

036477 - 001 ^{DT} 極秘第 62 号

※ 総第 036478 - 004 号

※ 昭和 54 年 6 月 29 日 18 時 01 分 受 付

略 略

極 秘
無 期 限
譯 の 内
号
Y Y Y Y Y

(回覧番号 D-711)

電 信 案

電信課長

大 臣
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官 房 長

主管 欧 運 局 長
参 事 官
西 欧 才 一 課 長
首 席 事 務 官

※ 発電係
起案 昭和 54 年 6 月 28 日
起案者 電話番号 2606

(※ 印刷内は電信課記入)

協議先

北米才一課長 東欧才一課長
中国課長 東欧才二課長
蘇アソ才一課長
難民対策室長

在 西 分 館

大 使 外務大臣 発
あて 総領事

件 名

大平総理、江口首相会談(要旨)

主管・文書記号

※

欧西一 第 652 号

大至急

至急

普通

(優先処理)

本件会談は 27 日、14 時 30 分より約 1 時間、総
理官邸に於いて行われ、本件会談
~~の要旨~~ (参加者: 日本側 - 本大臣、田中官房
長官、宮崎外官、独側 - 江口 - 外相、江口 -
大佐、江口 - 首相府局長、江口 - 在東京独大使)

電 報
転 送 在
転 報

米、ソ、中

大 使 外務大臣 発
総領事 大至急

※ 転電番号

合 第 8363 号

至急 (優先処理) 普通

(昭和五二・七・六 改正)

GB-1

書記在)に不出りて冒頭)

ト、總理の、東京の成功の、^在の、~~力~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~

~~と~~ ~~の~~ ~~種~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~要~~ ~~請~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~ (、首相

の、~~種~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~要~~ ~~請~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~、成功

の、~~種~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~要~~ ~~請~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~、日英間の、~~不~~ ~~一~~ ~~性~~ ~~の~~

の、~~種~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~要~~ ~~請~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~、~~建~~ ~~続~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~要~~ ~~請~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~出~~ ~~り~~ ~~て~~ → 揚

力、~~是~~ ~~向~~ ~~を~~ ~~手~~ ~~に~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~の~~ ~~に~~ ~~引~~ ~~続~~ ~~け~~ ~~る~~ (1) ~~サ~~ ~~シ~~ ~~カ~~ ~~の~~ ~~内~~ ~~閣~~ ~~運~~ ~~行~~ ~~問~~ ~~題~~

題 (工率の問題、向地問題を中心)、(2) 世界

情勢 (ア、ア情勢、政治情勢等)、(3) 日英関係

を中心とした、~~話~~ ~~の~~ ~~合~~ ~~の~~ ~~行~~ ~~方~~ ~~を~~ ~~考~~ ~~へ~~ ~~る~~、世界情勢及び

日英関係の内閣會議要旨以下、通り、

2.

1. ~~世界情勢~~

(1) ア、ア情勢

「江」首相の、~~運~~ ~~行~~ ~~の~~ ~~事~~ ~~を~~ ~~手~~ ~~に~~ ~~し~~ ~~て~~、總理の、~~イ~~ ~~シ~~ ~~カ~~ ~~の~~

十約第は小康を保障すべし。中国が越えぬは
 second punishment を不可可能性を排除すべし
 べし。長らく越えぬ運の過度へ傾^斜むべしは
~~方針~~あり。本^国と中・ソ・越の関係を申し
 述べざる旨の説明を行ふ。

^{総理より}
 本^国難民問題の^{こと}は今次井三トでもいかに
 結束の努力を高めざるを参考国の同意が後
 進歩するは米は^{今般}この問題を話し合う用意あり
 との態度を示すべし。ASEANについては^中心
 (LOC)は高度の発展を以て政治的安定を高め域内の連帯を強く
 国としては其の stability と solidarity を高めざる
 べし。外交政策の corner stone たる旨
 を説明いたす。この首相と ASEAN の計十本
 国のアセアンに同感の意を表明。難民問題の
 解決の努力の態度を示す。

(2) 欧州事情

総理の、党内の対「江」首相の、次のような説明がなされた。
(持たえつた新の口述)

(1) ソ連指導者は将来の中国の政策、戦略の非常な強固な懸念を抱いている。中ソ間には外務次官レベルの会談の話があるが、何か成果が上がることは望めない。

(2) SALT II の米談合の承認と否の二は在るかどうかがソ連は非常に気にしている。その場合の政治的、戦略的うねりの~~混~~混乱を心配している。独の利益が、自分としては米談合の承認に保たれたい手合いであるがソ連に述べた。

(3) SALT II のカバンに述べた grey area の兵器に因りソ連の不安、不安の中に対独のこの解決の問題は、独にとり growing concern である。ソ連は常に述べた通りである。

持込みの態度であった。然しこれは中距離にのみ

は SALT II のバリエーションを必要とする

もしそれが出来れば両側とも同様の兵器

を開発しなければならぬと意図している

わたり明らかになるにソ連側の地位は

(2) SALT II のことは、ソ連は「SALT II は戦略兵器

の threat にかかわりを持たない全ての国が参加す

べし」と云い、中国も入るかとの質問にも「yes」と

答えた。

(木)

中距離の戦略兵器については、米ソ間のみり理

解が通らぬままのままである印象がある。

また、かかる中距離戦略兵器による共通の脅威への

対応として、tacitly かつ substantial な意

見交換を行つていく時期に来ていると云う。

考慮される中では、ソ連側の健康状態は

「不慣れ」が actually ^には 暫定的な「7」の仕事
を take over する準備を進め、その印象
を受け、その説明がなされた。

2.
3. 日独関係

(1) 日独文化関係強化

「江」首相より、日独両国関係の発展
は文化面での協力促進に大きな希望 (great
potential) があつたことは述べた。西
側の日本文化の普及の設置は、京都
~~文化~~文化研究所の問題に言及し、総理
も検討が望まれる。

(2) 総理訪独招待

「江」首相より、訪独 (公式) 招待を renew
して述べた。総理より、招待を感
謝する。早く早く訪日して、真剣に

之由「日」回答也。

此「日」首相也。1980年秋「選挙」

ありては「選挙」時期也。復休

中前「選挙」~~は~~也。付言也。

~~（首相）
首相「選挙」東独の世論也。この~~

~~「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

~~「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

~~「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

~~東独国家評議会議長「新日」大平総理~~

~~前「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

~~「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

~~「選挙」は「選挙」也。この重要は~~

米、中、ソ、日「選挙」也。(3)

(3)